

1. 技術開発

社名	新たな技術開発の取り組み
A	<ul style="list-style-type: none"> AI技術を活用して輪転機の自動運転を実現。印刷する紙の張力制御の安定化により、損紙削減に寄与 全31工場が2020年9月から、紙面の写真やデザイン素材を構成する微小な点（網点＝あみてん）を細かくする「高精細化」を行い、素材をよりリアルに表現するとともに、使用インキ量の数%削減を実現した。インキの削減により、生産段階でのエネルギー使用量、CO2排出量も減らせたと考えられる

2. 省エネの具対策

社名	省エネのために実施した具体的な対策	投資額	省エネ効果
A	<ul style="list-style-type: none"> 4事業所の照明をLED化 		<ul style="list-style-type: none"> 約20k1
B	<ul style="list-style-type: none"> 複数の工場で熱源の運用改善に取り組んだ。冷水熱源を吸収式冷凍機からターボ冷凍機、チラーに更新することで、1次エネルギーを都市ガスから電気に移行し、省エネを図った AHUの冷温水コイル更新や、冷却・空調機でのトップランナーモーター更新でエネルギー消費効率を改善した 設置から年数の経ったターボ冷凍機の分解整備、スクリーン冷凍機のチューブ洗浄など、メンテナンスを通じて、効率を改善した 一部のビルでは、受変電設備の更新にともなって地下電気室の空調機を更新し、容量を適正化して冷房能力を縮小し、省エネを進めた 		
C	<ul style="list-style-type: none"> 本社ビルにガス吸収式冷温水発生装置を省エネ型に更新 		<ul style="list-style-type: none"> 2021年度から検証予定
D	<p><本社></p> <ul style="list-style-type: none"> 電力負荷の高い機器（外調機及び電化厨房機器）のピーク使用時間を分散させて最大使用電力を抑制 日没の時間に合わせて、外灯の点灯時間を毎日変更し、無駄な点灯時間を削減 男女各トイレに2台設置している洗面台の給湯器を、夏季の期間は1台停止し、もう1台も電源にタイムブレーカーを設置して勤務時間に合わせて運用。また、温水洗浄便座の便座温度と洗浄温水温度を下げて節電に努めている 不要な箇所の照明管球を554本間引いた。点灯箇所は照明制御盤にて適正な照度に設定 日曜日と祝日は4基あるエレベーターのうち2基を終日停止 仮眠室にあるシャワーと洗面台の給湯時間を管理し、不要なガス流量を抑制 ペットボトルキャップの回収活動（地元業者を通じてポリオワクチンに交換） 空き缶プルトップの回収活動（地元企業を通じて車椅子に交換） 一部貸室で直管蛍光灯48本分をLED化して消費電力を抑えた <p><印刷工場></p> <ul style="list-style-type: none"> 外灯（水銀灯）の更新（LEDへ）完了 		<ul style="list-style-type: none"> 照明管球の間引きによる省エネ効果は約16.5kWh/日（稼働時間分）
E	<ul style="list-style-type: none"> 工場照明のLED化 A工場 事務所エリア蛍光灯 B工場 輪転機室水銀灯 C工場 輪転機室水銀灯 D工場 輪転機室水銀灯 	約3500万円	<ul style="list-style-type: none"> 約65k1/年の削減効果
F	<ul style="list-style-type: none"> テレワークの実施 使用していない部屋の照明や空調を切る 可能な場合は、両面印刷、モノクロ印刷をする 		
G			<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費量変化 2020年度：電力530万6000kWh CO2排出量2848t-CO2 2021年度：電力537万kWh CO2排出量2824t-CO2 対前年度エネルギー消費削減量 CO2排出量：24t-CO2
H	<ul style="list-style-type: none"> 本社が入居しているテナントビルがエネルギー消費量を抑える活動を推進している。冷暖房機器の空調温度は細分化されたエリア（ブロック）ごとに、ビル推奨設定温度の+2℃から-2℃の幅で都度、適性に設定している。使用時間に関しても、営業部門の出勤時間と編集内勤部門の出勤時間に合わせて、空調が必要となるエリアごとに、細かく管理。社内はフリーアドレス制で固定席が少なく、時間帯に応じて使用できるスペースをおおまかに決めてあるので、エリアごとの空調設定が可能。不要照明の適切な消灯も行っており、最適な設定を心掛けている 		
I	<ul style="list-style-type: none"> 夏のクールビズ 		
J	<ul style="list-style-type: none"> 変圧器4台更新 	3000万円	<ul style="list-style-type: none"> 12k1削減（前年比99.1%）

社名	省エネのために実施した具体的な対策	投資額	省エネ効果
K	・印刷工場の地下空調機械室照明、直管蛍光灯40w×1灯、18台をLED化		・電力量80%削減
L	・輪転機更新に2020年10月着手 2021年3月に1セット目、10月には2セット目が完成した。印刷体制は21年4月から省エネ機1セット+既存機2セット、10月から省エネ機2セット+既存機1セット		・輪転機の電力使用量 2020年度 158万7870kWh① 2021年度 132万1550kWh② 削減量 26万6320kWh (①-②)
M	・蛍光灯廃止によるLED照明器具への更新工事を実施	99万円(税別)	・交換数が少なく電気使用量もあまり変わらなかった
N	・印刷工場移転後に手付かずだった電気設備の容量を見直し、設備容量の縮小で変圧器の待機電力を減らした		
O	①空調機更新および照明LED更新 ②輪転機更新(継続中)	①約4000万円 ②約9億円	①2020年度比1.5%削減(約19万kWh削減) ②約5万kWh削減(更新中のため輪転機が稼働していない期間を含む)
P	・本社の照明をLEDに更新 (無線型調光システム、点滅区分の細分化)	約1億円	・2021年度削減量は原油換算で30kl。建物全体の4.2%相当 更新によるエネルギー削減量は、年間50kl。照明設備の50%、建物全体の7%相当を削減できる見込み
Q	・2021年5月:本社3階フロアの照明を全てLEDへ切り替え	107万8000円	・削減率60%
R	・照明のLED化。自動点灯、消滅灯の導入	5万円程度	
S	・社内照明の完全LED化		
T	①本社館内LED照明の一部交換 ※従来のLED照明からの入れ替え。入れ替えにあたってバックヤードなどには従来よりも低照度のものを導入し消費電力を抑える。長期修繕計画のため、全館完了までには数年かかる見込み ②空調温度の見直し。クールビズ、ウォームビズをすすめている	①1008万9000円	
U	・LED照明	8000万円	
V	①パッケージエアコンの更新 ②エネルギーピーク時間の平準化 (稼働時間をずらしピーク時を減らす) ③電気使用量の削減 ④熱源再利用	①4000万円 ②無し	①原油3kl/年 ②不明
W	・省エネ空調に入れ替え(1台)		
X	・本社ビルの一部照明を従来の蛍光灯からLEDへ交換した	約1700万円	・約8万5000kWの削減
Y	①事務所照明・作業場水銀灯のLED化 ②老朽化した空調機(エアコン)の更新	①244万円 ②空調機に944万円	①各所LED照明の工事後から2022年3月までの期間で2万102kWh削減
Z	①新聞制作システムを2021年11月に更新。原稿モニターのペーパーレス化を促進した ②本社社屋の誘導灯をLEDに切り替えた		①コピー用紙・トナーとも前年比43~45%の削減率 ②削減量は不明
AA	①本社ビルの照明器具(357台)を蛍光灯からLEDへ交換 ②本社ビル事務室のエアコン機器を更新	①700万円 ②4250万円	①消費電力、32.13kwから11.13kwへ削減
AB	・輪転機上部照明のLED化	188万円	・原油19klの削減
AC	・印刷工場は一部照明にLEDを使用。また、廊下やトイレは人感センサーを使用し、こまめに照明の入り切りをしている。空調機は全機スケジュール運転となっており、不要な運転をしないようにしている		・印刷発送機及びコンプレッサー、チラー、空調機は以前と比較し電力消費が少なく、契約電力を抑えることにつながっている
AD	<印刷工場> ①個別空調の導入 ②LED照明の導入 ③浴槽を廃止し、シャワーブースを新設(2021年11月)		①②は比較できず。 ③浴槽からシャワーブースに変更したことでガス使用量が年間75%程度抑制される見込み。貯湯槽を廃止する給湯運用見直しによる。ガス(13A)の削減量は1万4000m ³ /年。原油換算で11kl/年を見込む
AE	・会議室照明の一部(ダウンライト)をLED照明に更新		
AF	①照明設備のLED化(17基) ②別館PAC更新	①64万円 ②240万円	①約0.5kl/年 ②約1.28kl/年
AG	・照明のLED化		
AH	・本社、印刷工場の照明をLED化		
AI	・2021年12月に輪転機を変更		・以降、消費電力が20%減少した

3. 輸送部門の取り組み

社名	自社や輸送委託会社でのCO2排出削減に向けた具体策
A	<p><自社></p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸送コース数削減による総輸送距離の削減 ・エコドライブ、車両整備・点検などの推進を要請 <p><輸送会社></p> <ul style="list-style-type: none"> ・省燃費運転の励行 ・構内でのアイドリングストップ ・エコタイヤの導入
B	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送業者に対して環境に即した取り組みを申し入れている
C	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞社として2022年2月から、EVトラックを使って印刷工場から販売店まで新聞を輸送する実証実験を開始した。輸送委託先がEVトラックを1台購入し、新聞社側は充電器の設備費など必要経費を負担した。印刷工場を拠点に、平日は夕刊で約10km、朝刊で約60km走行する。充電には、急速充電で約1.5時間、普通充電で約11時間かかり、1回の航続距離は約100km。配達での実用性や実際の操作性を検証する ・2019年6月から、飲食チェーンと提携し、新聞輸送のトラックに飲食チェーン側で使う塩などを載せる共同輸送事業を行っている。国土交通、経済産業、農林水産の3省から物流総合効率化法に基づく計画認定を受けた。新聞輸送トラックが飲食チェーンの関連拠点で塩やジャム、紅茶を積み込み、印刷工場で夕刊も一緒に混載。各新聞販売店に夕刊を届け、飲食チェーンの物流拠点にも荷物を届ける。これによるCO2削減効果は年間1.3トンに上る
D	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップの実施を輸送委託社に積極的に呼び掛けている
E	<p><輸送委託会社></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した車両の導入（BlueTecシステム搭載車の導入） ・エコドライブの推奨（法廷速度厳守）
F	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送トラックなど印刷工場に出入りする車両にアイドリングストップの実施を呼び掛け、実践している
G	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮したクリーンディーゼル車両導入の推奨や、エコドライブの推奨を輸送委託社に呼び掛けている
H	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、環境に配慮した車両を導入している ・アイドリングストップの実施を呼び掛けている ・急発進、急ブレーキの際にはエラーが表示されるようになっており、エコドライブを推奨している
I	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップの実施を輸送委託社に呼び掛けている
J	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送委託会社では、夏・冬のアイドリング時間の設定を行っている。また、速度抑制を行っている
K	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送委託会社ではトラックの一部にアイドリングストップ搭載車を導入した
L	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップへの協力を新聞輸送委託業者に呼び掛けている
M	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ車の導入、順次切り替え
N	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した車両への入れ替え ・ドライバーアイドリングストップ、エコドライブ積極実施を呼び掛け
O	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した車両を導入している ・荷積み待機時に、アイドリングストップを自社・輸送協力社ともに実施している ・デジタルタコグラフの活用で、ドライバーに急ブレーキ・急発進などの注意を促し、事故防止とともに環境に配慮した運転指導を行っている
P	<ul style="list-style-type: none"> ・車両を更新する際は、CO2排出量の少ない車両を選んでいる
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した車両の導入 ・エコドライブの推奨 ・輸送ルートの見直し
R	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送会社へアイドリングストップとエコドライブの取り組みを徹底するよう呼び掛けている
S	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップの呼び掛け
T	<ul style="list-style-type: none"> ・エコにつながる安全運転の呼び掛け
U	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送委託社で天然ガス車両を導入 ・アイドリングストップを輸送委託者に呼び掛けている
V	<p>輸送委託会社に以下の働き掛けをしている</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 燃料をCO2排出量の少ない車への導入を勧めている 2. アイドリングストップは駐車時、停車時に積極的に行うよう勧めている 3. 急発進、急ブレーキの厳禁を呼び掛けている

社名	自社や輸送委託会社でのCO2排出削減に向けた具体策
W	<p>日本トラック協会の「省エネ運転マニュアル」に沿って</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急加速、急停車をしない 2. 加減速の繰り返しを行わない 3. アイドリングストップの励行 <p>などの項目を事務所内に掲示するとともに、乗務前点呼、乗務後点呼時などでドライバーに省エネ運転を呼び掛けている。 また、タイヤ空気圧の適正保持、エンジンオイルの定期交換など、省エネルギーにつながる定期点検整備を確実に実施している</p>
X	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップ等エコドライブ教育を実施 ・路線の再編時、輸送の効率化を意識した
Y	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめなアイドリングストップ実施
Z	<ul style="list-style-type: none"> ・Gマークを取得し業務の安全等を評価 ・運輸安全マネジメントを導入 ・スピード制限を設定、エコ運転の指導 ・燃費向上に向けて、目標値を設定
AA	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップの実施を輸送委託社に要請 ・エコドライブの推奨
AB	<ul style="list-style-type: none"> ・取材や営業など各種業務で移動に利用する社有車にハイブリッド車を複数台導入している ・輸送委託会社ではエコドライブを推奨している
AC	<p><燃費向上によるCO2削減></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「急」がつく運転（急発進、急加速）をしない ・早めのシフトアップで回転数を抑える ・定速走行の励行及びデジタルタコグラフの取り付けを推進中 ・荷待ち時間などでのアイドリングストップの徹底 ・定期的に添乗指導を実施し乗務員にエコドライブの教育・指導 <p><CO2削減に適合した車両導入の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドブルー装備車の導入 ・アイドリングストップ機能装備車の導入 ・排ガス対応として定期的な車両入れ替えを促進（10年以上利用した車両が対象） ・エコに関する取り組みを題材としたセミナーの定期的な受講 ・SDGsを意識した取り組みを社内活動計画に導入していく
AD	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2削減を目的とした運転の実践例を毎回報告させている。具体的にはエコドライブ（アイドリングストップ、制限速度の遵守、急停止発進をしないこと）などを守ることを毎回確認している
AE	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の乗り合わせで車両の利用回数自体を減らすよう取り組んでいる

4. 植林活動

社名	社会貢献事業、環境関連イベントなどでの植林活動事例
A	・1985年、分収林制度を活用して9.87ヘクタールに約3万本のヒノキを植樹した。CO2吸収量は推計10～30t-CO2/年程度（似た植樹本数の森林の数値から推測）
B	・本社と新聞販売店、古紙回収業者の3者で運営する古紙回収推進組織で植林事業を進めている。2022年7月現在、植林地は9か所。植林したクヌギやケヤキ、ミズナラの苗木は計約7300本
C	・2009年から5年間で計9回、約7ヘクタールの土地にトドマツを植樹した。一帯は2004年の台風で被害を受けた国有林の一部。新聞販売店が回収した古紙の売却代金で活動費用を賄う。紙のリサイクルを絡めた環境活動として取り組んでいる
D	・2000年頃、約400ヘクタールの土地に植林
E	・川の堤防沿いなどにサクラの苗木を植栽。国土交通省や県、市町村などの協力を得て1996年から続けている
F	・2021年に、枯死被害が深刻なアオモリトドマツの植樹を始めた
G	・協賛企業とともに苗木の植樹などを行っている。コロナ下でも、対策を講じた上で植樹は実施している
H	・海外での植林活動に中高生を定期的に派遣している。環境や平和について理解を深めてもらうことが目的。2019年は計20人をベトナム・ホーチミンに派遣し、マングローブの苗木400本を植えた。コロナ禍で2020年以降の実施は見送られている
I	・新聞社、県、森林所有者、林業会社の4者で「森林づくり協定」を締結。2011年から10年間、1ヘクタールの土地にヤマザクラ、ケヤキ、カエデなど計3000本を植栽。協定はその後、22年から10年間の期間で更新。CO2吸収量の推定値は当初の10年で41.63t、更新後の10年で107.78tの見込み

5. 再生可能エネルギーの導入

社名	再生可能エネルギーの利用動向、用途、効果
A	・印刷工場で太陽光発電設備を自営（発電量は100kW）。自家消費している。2021年度の発電量は11万9000kWh
B	・本社に20kWの発電が可能な太陽光パネルを設置。年間2万kWh以上を発電している。CO2削減効果は年間6t以上。発電した電気はビル内で使っている
C	・印刷工場に太陽光発電設備を導入している。パネルの設置面積は2300㎡（屋根面積の72%）。出力は約500kWで、年間発電予測量は53万kWh。工場の年間消費電力の約11%を賄う。CO2の排出削減量は年間235.5t、スギの木約1万6800本が1年間に吸収する量に相当する
D	・1工場、2支社、1支局に太陽光発電設備を設置。このうち1支社と支局は自家消費（発電量は9kW）。1工場（発電量は100kW、年間13.3万kWh）・1支局（発電量は10kW、年間1.4万kWh）は全量売電
E	・本社に太陽光発電設備を設置（10年目）。2021年4月から1年間の発電量は1万3628kWh
F	・印刷工場で太陽光発電設備を自営。発電量は1日約500kWhですべて売電している
G	・太陽光発電設備を自営。2021年度の発電量は35万3466kWh
H	・社有地に太陽光パネルを設置。全て電力会社に売電している。年間発電量は29万8248kWh
I	・5支社の電力を県内の新電力会社に変更し、CO2フリー電力を導入した
J	・編集部門のフロアで使用する電力を再生可能エネルギーに切り替えたとみなす「グリーン電力証書」を取得している
K	・電力会社の再生可能エネルギー事業を目的とした社債に協賛、投資している
L	・太陽光発電などを手掛ける地元の新電力会社に出資している

6. その他の取り組み

社名	資源回収、リサイクルなどその他の取り組み事例
A	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント枚数の削減 ・新聞古紙回収の促進 ・新聞梱包材のリサイクル ・社有車、契約車を更新する際、環境性に優れた車両の導入を推進 ・諸資材、部品の調達に際して、可能な限り環境に配慮した商品を購入 ・主催の駅伝大会では2009年からカーボンオフセットを実施
B	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞結束バンドの回収、新聞古紙の回収など
C	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体のガス総量削減義務制度で定められた削減義務率以上に減らした排出枠約3万トン を2020年7月、自治体に寄付。知事から感謝状が贈られた ・2020年4月には、読者宅から回収した新聞古紙を国内製紙会社に直接販売し、資源を100%国内で循環させる「クローズド・ループ」システムを開始した。一部地域でスタートし、その後、実施エリアを拡大している。古紙相場の乱高下を防ぎ、永続的な新聞用紙リサイクルの実現を目指す ・印刷工場で日々発生する損紙（印刷準備や紙つなぎ時、後作業などで発生する商品にならない廃棄紙）を国内製紙会社に直接販売する「損紙クローズド・ループ」については、2015年3月に印刷工場1か所で開始後、全国展開を進めている
D	<p><A工場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファクス用紙の裏白の再利用 ・白損紙をトイレの手拭きに転用 <p><B工場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港線クリーンアップ協議会活動に協力
E	<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラスチック削減への取り組み 自社グループが使用する事業系廃プラの半減を目指す 工場ではリサイクル処理業者と契約し、プラごみのサーマルリサイクル100%を目指す ・高濃度インキの導入によるインキ使用量削減、廃インキ削減、トラック輸送回数低減 ・製版方式を無処理版、ケミカルレス版に変更することにより廃液総量を減らす ・輪転機の洗浄液について 廃液再生装置を導入し、省資源（新液量削減）と廃棄物削減を推進 洗浄液の容器を回収・リサイクルして廃棄物を削減
F	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃業者に依頼し、新聞古紙の回収を行っている ・委託印刷ではあるが、エコインキを使用しているとの報告を受けている ・社内の機密文書処理は、CO2排出量削減の為、業者に委託し溶解処理をしている
G	<ul style="list-style-type: none"> ・関連会社が自治体の認定古紙回収会社として活動している
H	<ul style="list-style-type: none"> ・テナントビルの推進に沿う形でリサイクルを実施。分別するゴミ箱が常設されており、社員の意識も高い ・自社の印刷工場を有していないため、工場設備における大幅な改善の取り組みは行っていない。インキや新聞用紙については、各メーカーが開発した新製品を導入する際、関連企業と歩調を合わせて積極的に賛同し、推進している
I	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収
J	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収
K	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収
L	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収 ・全6工場で薬液処理が不要な無処理刷版に変更し、現像液・ガム液などの廃液をなくした
M	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙回収の他、雑がみ等を分別して地区町内会へ提供しリサイクルしている
N	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞梱包用バンド、フィルムを販売店から回収。産業廃棄物回収業者に依頼し、リサイクルしている
O	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収
P	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体による地球温暖化緩和対策の一環として、ある一定期間CO2排出量の削減目標を「議定書」として取り交わし、省資源、省エネルギーに取り組んでいく事業に毎年参加。主に館内の節電、節水、廃棄物の低減などできる範囲で取り組んでいる。具体的には前年より基準年を設定し、基準年を下回ることを目標に取り組む。また、定期的に始業時間前、周辺歩道の清掃奉仕活動も実施している
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷工場損紙のクローズドループをしている
R	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体が認定するエコ事業所の認定を受けている
S	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収
T	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やOA古紙の回収

社名	資源回収、リサイクルなどその他の取り組み事例
U	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収 ・刷版のリサイクル ・富士フィルムのカーボンオフセット活動 (Green Graphic Project) に参画 ・運用見直しによる設備洗浄用の白灯油使用量の削減、2020年度比-13% (-6.5t) ・SDGs メディアコンパクトに加盟
V	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣自治体、本社印刷工場、製紙会社との間で古紙の回収ネットワークを作り、古紙の回収を実施している。超軽量紙は100%リサイクル品を使用
W	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収
X	<p><印刷工場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻取紙の単位面積あたりの秤量を削減 ・芯残紙 (巻取紙の芯際に残る紙) の径変更にて芯残紙を削減 ・不良紙や芯残紙のリサイクル (古紙回収業者) ・使用済みの刷版 (アルミ製) を他の製品に再生利用 <p><発送関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装に使用するフィルム、バンドを再生利用
Y	<ul style="list-style-type: none"> ・古紙の回収 ・インキ缶の回収廃棄
Z	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞用紙、社内から排出された紙資源のリサイクル、再利用の徹底
AA	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンオフセットの取り組み、古紙、刷版の完全リサイクルの取り組み
AB	<ul style="list-style-type: none"> ・取材で用いる記者の所有車をハイブリッド車にした場合、手当を支給
AC	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収 ・機密文書溶解処理
AD	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞販売店と連携した新聞古紙の回収 ・減斤紙の利用
AE	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞古紙の回収。業者に委託し、定期的に回収している